

## 公開シンポジウム「女性と性とHIV」

### 1999 ワールドエイズデー スペシャルイベント

1999年12月1日渋谷のウイメンズプラザで日本ではじめてHIV陽性者の女性が公開で語りました。保健婦であり厚生省のエイズ対策指針検討委員でもあった北山翔子さんと女性のためのホームページを制作している林りりさん。恋愛、仕事、子育て、家族、そしてマスコミとエイズ、じっくりときかせたおふたりのトークに100人をこす参加者は熱いメッセージをたくさん寄せてくれました。他人事が「わがこと」になって、頭での理解が肌の実感になり、HIVの有無にかかわらない共感につつまれた素敵なワールドエイズデー、2000年へのたしかなステップでした。(ふれいす東京ニュースレターNo.25より)

暖かい拍手をいただきシンポジウムを終え、回収したアンケートを北山さんも私も貪るように読みました。読みながら胸が熱くなり、こんなふうに気持ちが通じあえるのだなと実感していました。最後の拍手は、会場にいた全員が全員に送った拍手であったとあらためて思いました。シンポジウムにきて下さった方、またアンケートへのご記入ありがとうございました。(林りりより)

#### <シンポジウムの報告書ができました。アンケートに寄せていただいたコメントを一部ここでご紹介します。> エイズは特別な病気ではない / マスコミに対して

HIV感染者というどうしてもマイナスのイメージがつきやすく、メディアでもこぞってマイナス面を強調しているように思われるが、今回の講演をきいてくつがえされた。それぞれがHIV感染によって“生きる”ということに真直ぐに向かい合い、そうでなかったら出会えない多くの人達と出会い、感謝しているところに感慨をうけた。(20代・学生)

メディア(マスコミ)の無責任さを改めて感じました。メディアは人々に対して、大きな影響力をもっているのに、HIVに関してイメージを作って発信する。そして自分の持っている責任を無視している。つくづく正しい知識、情報が得られる場に積極的に参加した方がよいと思いました。実際に感染者の北山さんと林さんのお話を聞いてHIVは何ら特別なものではないのだと感じました。(20代・学生)

#### 職場・学校

何かと書かれている「特別な人の病気じゃない」とか「誰にでも」という事の本当の意味やイメージがわからなくなっている事を気づかされました。それは私にはどう伝えていけばよいのかという迷いでもありました。私にとって特別でない人は隣に射切る人であり、今日北山さんに出会えたことが本当の意味のように感じました。全国の、保健にかかわる仲間は全国の一女性であり、うまく書けませんが・・・心に落ちました。マスコミの情報操作にも本当に嫌気のさしている今日この頃ですがお二



人の普通で当たり前の女性としての生き方を1人でも多くの方にありのままに伝わっていく事を願います。私も仕事として今まで伝えてきた事に大きなエッセンスになりました。ありがとうございました。何かの時はお力を貸していただければと思います。よろしくお願いします。(30代・保健婦)

お二人の前向きな考えに拍手です。私は今、ホットラインで相談員をしています。エイズノイローゼのひとにお二人の勇気と力を与えて欲しいと思う程でした。北山さんには素敵なパートナーと林さんには三人で幸せに・・・と願っています。林さんがママなら息子さんは伸び伸びと成長されると思います。ガンバレ、ママ！(50代・主婦)

### 感動した

お二人への感想として、ごくごく普通に自然体にそして前向きに生活している様子、啓発活動(お話)、本当にこちらからありがとうございます。(男性が会場にすくなかったことが残念)(50代・主婦)

お二人ともとても自然体でお話もすごくよかった。女性という点だけで”うん、わかるよ”って思うところもお話をきいていて多くありました。さらさらとしてステキな女性たちの話をきいて気持ちよくなりました。ありがとう。(30代)

お二人の話、それぞれのキャラクターで成功しました。休みをとってきたかいいがありました。北山さんの、感染者のイメージが「明るく前向きに生きる」があるが、自分はありのままにいたいというお話にハッとさせられました。マスコミはひどすぎますが自分の中にもそうあってほしいというイメージがあったな、と反省しています。(40代・養護教諭)

### その他

もっと詳しく聞きたいことがたくさんあった。(40代・教師)

お二人の率直で正直なあるがままの姿をみせていただき、お話を聞くことができとてもよかったです。人の死は寿命だということに同感です。長く AIDS、HIV に関心を持ち、学んできたのですが今一つ見えないし、自分の生活の中に入ってきません。サンフランシスコ(World) のことなど知って今日のシンポジウムもやっと日本でもこういうことができた嬉しく思います。それにしてもマスコミにはきちんと抗議すべきですネ。(50代・高校教師)

女性の HIV 感染患者の話自体が初めてで衝撃的でした。サポート体制や認識の拡大がこれから必要なのがわかりました。(20代・学生)